

令和5年度
事業計画・資金収支予算書

社会福祉法人 善通寺福社会

I	令和5年度の運営方針	• • • • •	1
II	本部事務局事業計画	• • • • •	2
III	特別養護老人ホーム仙遊荘事業計画	• • • • •	3
IV	ショートステイ仙遊荘事業計画	• • • • •	5
V	仙遊荘デイサービスセンター事業計画	• • • • •	6
VI	グループホーム仙遊荘事業計画	• • • • •	8
VII	老人介護支援センター仙遊荘事業計画	• • • • •	10
VIII	生計困難者に対する相談支援事業	• • • • •	12
IX	養護老人ホーム五岳荘事業計画	• • • • •	13
X	特別養護老人ホームまほろば事業計画	• • • • •	14
XI	仙遊荘拠点区分資金収支予算内訳表	• • • • •	16
XII	五岳荘拠点区分資金収支予算内訳表	• • • • •	18
XIII	まほろば拠点区分資金収支予算内訳表	• • • • •	19

令和5年度の運営方針

1 善通寺福祉会を取り巻く環境

国内で新型コロナウイルス感染症が初めて確認された令和元年以降、善通寺福祉会では施設入居様者への感染予防に努めてまいりましたが、令和4年度がスタートして間もなく仙遊荘・五岳荘各施設において、入居者様へのコロナ感染が初めて確認され、その後もグループホームや特別養護老人ホームまほろば等でも相次いで入居者様の陽性が確認されることとなりました。

中でも9月に仙遊荘と五岳荘で発生したクラスターでは、発生から収束までに1か月以上の期間を要すこととなり、多くの入居者様に不自由な生活を強いることになったことに加え、対応する職員もこれまで経験したことのない防疫業務に大きな身体的・精神的負担を抱えながら業務を遂行することとなりました。

感染対策においては事前に対応マニュアルを計画し備えていたものの、施設内で日々増加する陽性者に迅速かつ臨機応変に対応し、かつ陽性者以外の入居者様へのサービス継続に十分対応するためには、職員一人ひとりがより深く感染症に対する正しい知識を得ることが必要であると実感いたしました。

このことを踏まえ、私達が実際に経験し実践した内容を、対応マニュアルにアップデートして内容の充実と、職員研修の徹底をしていくことが大切であると考えています。

これまで、安心安全な住環境を守るために感染症を持ち込まない対応を重視し、職員一人ひとりに行動制限を含めた対応を指示してきましたが、新型コロナの感染症法上の位置づけが2類相当から5類へと移行されることが決定されたことに伴い、これまで行ってきた規制や制限を中心とした対応を見直す時期であると考えています。

今後は新たに示される指針などを注視しながら、感染症への対応を行ってまいります。

特別養護老人ホームの入居率は全国的に年々減少傾向にあります。

一方で、人件費は年々増加傾向となっており、感染症の影響により収入も減少していることと併せ、収支差額は減少の一途をたどり、全国特養の3割近くが赤字運営となっています。

当法人も同様の問題を抱えていますが、各介護保険事業所において感染症の影響を最小限に抑えながら比較的高い入居率・利用率を維持しております。

これは、営業力の高いケアマネージャーや相談員が他事業所と連携しながら空所期間の最短化や、通所介護の利用促進に努めたことに加え、介護・看護職の介護力の向上により利用者のニーズに合せ柔軟に受け入れを行っていることがあげられます。

今年度も感染症の影響によりこれまで以上に厳しい運営環境にさらされることが想定されます。

法人では、各事業所においてコロナ禍においても安定して入居者及び利用者、そのご家族にサービスを提供し続けられるよう持続可能な施策に取り組んでまいります。

2 運営方針

- コロナ禍において心身共に大きな負担を強いられながら業務を継続する職員の健康管理を徹底してまいります。
 - 持ち上げない介護、ノーリフティングケアを特別養護老人ホーム以外の事業所でも実践します。
 - 外部ボランティア再開のための環境を整備し、多様なレクリエーション活動を再開いたします。
 - デイサービスセンターでは、併設事業所の感染状況によって介護サービスの提供が中断されないよう、事業所内の環境改善や、利用者に合せた柔軟な受け入れを行い、事業を継続してまいります。
 - グループホームでは、1ユニット事業所の構造的特徴を活かし職員と家族の動線を区分する等、感染リスクを排除した上で入居者と家族の対面面会を再開いたします。
- 昨年度、浴室の大幅改修を行いました、これに伴い入居者の重度化に対応してまいります。
- 五岳荘では、県内保険者へ適正な措置入所への理解を求めてまいります。
- 措置入所以外の契約入所を多くの方に利用していただけるよう周知活動を強化致します。

3 理念

- 「敬愛」 尊敬すると共に親しみの情をもって接すること
- 「誠実」 相手の立場、心情を考え自分の良心の命ずるままに行動すること
- 「奉仕」 福祉の心をもって、地域社会の為に尽くすこと

Ⅱ 『本部事務局』 事業計画

1 事業の概要

本部事務局は、法人理念である「敬愛・誠実・奉仕」に沿った法人運営を行えるよう、入居者・利用者に質の高いサービス提供ができる専門性と向上の意欲に満ちた人材の育成に努め、常に改革の視点をもって、効率的運営を行い、信頼される法人を目指すものである。

2 運営方針

本部事務局は、法人理念を基に

- ・将来設計、自分の未来を楽しく想像できる職場
- ・法令遵守、法令を守り、社会の良識に従った公正かつ透明な事業活動を行う職場
- ・感謝の気持ち、ありがとうの声を大切にする職場

以上3点を本部事務局の理念とし、運営に関わる多様な制度、法令の範囲内で、職員の成長や処遇の改善を念頭に置いた法人規程の整備や運用を行っていく。

3 重点目標

- (1) 業務継続計画の見直し及び、施設設備の営繕
- (2) 職員の処遇改善に係る対応
- (3) 感染症予防対策

4 実施計画

- (1) 業務継続計画の見直し及び、施設設備の営繕

- ① 過去に対応した施設内感染の知見を活かし、業務継続計画BCPを策定する。
- ② 職員への一斉メール配信システムを活用し、法人の意思決定をいち早く通知する。
- ③ 多様な補助金を活用し、施設の営繕を実施する。

- (2) 職員の処遇改善に係る対応

- ① 昨年度より新設された処遇改善加算と従来の加算を余すことなく効率的に支給し、賃金改善施策を継続する。
- ② 介護職員以外の法人職員に対しても処遇改善を継続して実施する。
- ③ 求人活動において、処遇改善実施施設であることを積極的にアピールし職員確保に繋げる。

- (3) 感染症予防対策

- ① 感染対策は持ち込まないから、施設内感染の拡大防止へ。
施設内への感染症の持ち込み防止対策は、非常に困難な状況と言える。
職員の行動制限を主軸としたウイルスの侵入防止対策に替えて、施設内感染発生後の拡大を最小限に抑える施策に重点を置く。
- ② コロナウイルスは、常に変異を繰り返すため、発生した株に合せた対応が求められる。
そのために必要な情報をいち早く入手するために、保健所や指定権者との連携を密にし対策に取り入れる。
- ③ 感染予防のための新しい日常生活へのシフトや、出勤不能職員の交代勤務などによる強い緊張状態が続き、過大なストレスを抱える職員の精神的な負担軽減のために、これまで以上に管理職が介護職員と係り、一人で抱え込まない環境を作る。
- ④ 自主的に抗原検査を実施し、感染者の早期発見に努め感染拡大を予防する。

Ⅲ 『特別養護老人ホーム仙遊荘』 事業計画

1 事業の概要

特別養護老人ホームは、加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等によって、要介護状態となり援助を要する者について、個々人の能力に応じて、自立した日常生活を営むことができるように必要な支援を行う。

可能な限り、これまでの生活環境及び生活習慣を継続できるように施設サービス計画に基づく、入浴、排泄、食事等の介護その他日常生活上の援助、機能訓練、健康管理及び療養上の援助を行うことを目的とする。

入居定員50名

2 運営方針

入居者の意思及び人格を尊重し、個別ケアの充実や安心・安全の介護への取り組みを実施する。

明るく家庭的な雰囲気を有し、地域や家族との結び付きを重視した運営を行い、効率的な施設運営を行うとともにケアの質の向上を目指す。

善通寺福祉会の持つ専門性・公共性を生かし、地域の福祉活動の拠点とし、地域の人々が安心して住み続けられるよう地域貢献に努める。

3 重点目標

- (1) ストップ「だろう」思考
- (2) ノーリフティングの実施

4 実施計画

(1) ストップ「だろう」思考

① 事故報告書は第一発見者が作成することとなっているが、事故発生時に第一発見者が作成することが困難かつ、他の職員が現場にいた場合は、介護・看護問わず多職種で役割分担(文書作成、思案、家族への報告)を決めて作成する。

それにより事故の未報告防止や、報告内容の質向上を目指す。

② 新型コロナウイルスの影響により、計画より職員数の少ない日もあるが、業務の質は落とさないよう昨年度出来なかったことを、実施できるよう一人一人が意識をもって行動する。

③ 申し送りや報告、連絡、相談の時に、不明な点があるにもかかわらず、「このくらいなら大丈夫だろう」でなく理解できるまで確認する。

また職員間で周知できることは申し送りノートに記載する。

「これくらい言わなくても分かるだろう」ではなく、多職種と情報共有をしっかりとこなす。

④ 少しくらい遅れても大丈夫だろうではなく期日は必ず守る。

⑤ 備品の発注や補充は誰かがするだろうではなく、率先しておこなう。

(2) ノーリフティングの実施

① 短時間でも不良姿勢が続くと身体的負担がかかる為、作業を見直し職員誰もが安心して働ける環境づくりに取り組む。

② 移乗時ベッドの上げ下げや不良姿勢の予防等、基本を見直す。

③ 介助方法の統一、職員全員が同じ方法で介助する。

<レクリエーション・クラブ活動>

クラブ名	内 容	開催数
書道クラブ	毛筆書写	月1回
お楽しみクラブ	映画鑑賞、カラオケ等	月1回

<年間行事計画>

	全体行事	フロアー行事	行 事 食
内 容	9月 福社会祭り	4月 お花見 5月 菖蒲湯 こいのぼり見学	4月 花見 7月 丑の日 9月 敬老の日
	行事・活動	6月 公園散歩、ドライブ 7月 七夕 9月 敬老会	12月 忘年会 クリスマス会 年越しそば
	お誕生日会(毎月) ショッピング おやつ作り(毎月) 昼食作り 外食 寺、神社まいり ドライブ 散歩 DVD鑑賞 カラオケ ※その他随時実施	10月 満濃公園コスモフェスタ 獅子舞見学 11月 菊花展 隊友会カラオケ 12月 クリスマス会 忘年会 1月 新年会 鏡開き 2月 節分 バレンタインデー 3月 雛祭り ※その他随時実施	1月 おせち料理 七草粥 2月 節分 3月 雛祭り

IV『短期入所生活介護』 事業計画

1 事業の概要

短期入所生活介護(ショートステイ)事業は、在宅高齢者が心身の状況や介護者の状況(病気、冠婚葬祭、介護疲れ等)により、一時的に在宅での生活が困難になった場合に、特別養護老人ホームに短期宿泊し、入浴、排泄、食事等の介護その他日常生活上の援助、健康管理及び療養上の援助を行うことを目的とする。

利用定員20名。

2 運営方針

利用者の人権を尊重し、利用時に在宅の生活状況を詳細に聞き取り、自立支援のためのケアプランに基づく個別ケアの充実と事故防止に努める。また、食事・入浴・排泄等の介護のみでなく、生活の中での機能維持に対する取り組みや各種行事に参加することで、ADLの維持向上と生活の活性化ができるよう努める。

特別養護老人ホームとの一体的・効率的な運営の中で、利用率の向上を積極的に図る。

3 重点目標

- (1) 個別ケアの充実に努める。
- (2) 多様なニーズをもつ利用者に適切に対応する。
- (3) 効率的な運営を行う。
- (4) 新型コロナウイルス対策を含む感染症対策の徹底

4 実施計画

- (1) 個別ケアの充実に努める。
 - ① 在宅生活の継続のため、詳細なアセスメントを行い、居宅ケアマネとの連携、居宅サービス計画書に基づいた援助を行う。
 - ② 生活の中での残存機能の活用によるADL維持向上、他者との交流による生活の活性化など良質なサービス提供に努める。
 - ③ 退所時には家族に利用時の状態報告、注意点などを報告し、必要に応じて助言、相談などを行う。
- (2) 多様なニーズをもつ利用者に適切に対応する。
 - ① 季節行事への参加等のサービスを提供するために、予約時にきめ細かに情報を提供し参加の促進を図る。
 - ② 重度の認知症や医療的配慮の必要な在宅高齢者を柔軟に受入れ、安全な利用のために、ケアマネージャー、主治医、家族等と十分な情報交換を行い、対応方法を確認して適切な処遇と事故予防に努める。
 - ③ 独居や家族の疾病などの緊急性の高い高齢者を受入れ、多くの方が利用できるように運営する。
- (3) 効率的な運営を行う。
 - ① ケアマネージャーと緊密な連携を取りつつ、新型コロナウイルスに十分注意を払いながら効率的な運営に努める。
 - ② キャンセルや日程変更、短時間利用等に適切に対応できる柔軟な受入れの仕組みを整え利便性・効率性の向上に努める。
- (4) 新型コロナウイルス対策を含む感染症対策の徹底
併設の特別養護老人ホームと同様の対策を実施する。

V 『仙遊荘デイサービスセンター』 事業計画

1 事業の概要

利用者が施設に通い、入浴や食事等の介護、その他の日常生活上の世話、機能訓練などを提供する。利用者の在宅生活の支援、社会的孤立感の解消、心身機能の維持、向上を目指すとともに、介護する家族の身体的精神的負担の軽減を図ることを目的とする。

利用者の意思及び人格を尊重し、生きがいの増進等を図る支援を行い、適正な指定通所介護(予防)事業を実施する。

利用定員25名(月～金) 15名(土)

2 運営方針

『おもてなしの心』を理念とし、利用率90%以上を目指す。

笑い声があふれるサービス提供を心がけ、デイサービス利用を通じて自立に向けた支援を行うとともに、『また利用したい。』という満足感と、感動を提供できるデイサービスを目指す。

社会とのつながりを大切にし、身体を動かし、心身ともにいつまでも元気に地域の中で、また、住み慣れた自宅で暮らし続けることができるように総合的なサービスを提供する。

3 重点目標

- (1) 対面レクリエーションの再開
- (2) 季節の代わり風呂を毎月提供する。
- (3) 旬の野菜を使った食事の提供
- (4) 事故のない安全なサービス提供と感染対策の徹底
- (5) 利用者家族、介護支援専門員との連携を大切にする。
- (6) 職員の資質向上に努める。

4 実施計画

(1) 対面レクリエーションの再開

- ① コロナ禍で中断していた、外部ボランティアによるレクリエーション活動を段階的に再開する。
(元気ハツラツ教室、保育園児とのふれあい、高校生ボランティアとの交流、交通安全教室)
- ② 問者と実施方法や当日の健康状態について細やかな調整を行い、会場となるデイサービスフロア的环境整備や手順等の取り決めを行う。
必要であればスクリーンの設置及び、ソーシャルディスタンスの確保なども併せて計画する。
- ③ ボランティアの体調不良が確認された場合には、当日キャンセルなどにも柔軟に対応する。
- ④ 実施は、これまでの訪問実績がある団体や個人から先行して実施する。

(2) 季節の代わり風呂を毎月提供する。

- ① 平安時代に、空海が医療として始めたといわれがある『季節湯』を取り入れる。
- ② 季節湯(代わり風呂)を『お楽しみ風呂』として準備し、季節を感じ、心身共に癒しの入浴サービスを提供する。
- ③ 3種類(普通浴、チエアー浴、特浴)の浴槽を使用し、身体状況に合わせて安全に入浴できるように支援する。
- ④ 入浴中は筋肉の緊張をほぐしたり、心身のリラックスに繋がるように、ゆったりとした雰囲気中介助する。

(3) 旬の野菜を使った食事提供をする。

- ① 暦や移り行く四季を感じられると共に、季節ごとの歳時を大切に、おもてなしの食事を準備する。
- ② ゆったりとした雰囲気作りに努め、心のゆとりを感じていただける食事提供を行う。
- ③ 嗜好調査を行い、『お楽しみ昼食』や『お楽しみおやつ』に反映させる。

(4) 事故のない安全なサービス提供と感染対策の徹底

- ① 送迎前には、自宅周辺の道路状況など確認を行い、余裕を持った送迎を行う。

②介護サービス中のヒヤリハットや事故報告、対策は職員間で共有し、同じ事故を繰り返さない。

③職員は感染対策を徹底し、使用する物品、送迎車内も含め感染対策を徹底する。

(5)利用者家族、介護支援専門員との連携を大切にする。

①常に居宅介護支援事業所の訪問や電話連絡等により、顔の見える関係作りを継続する。

②利用時の様子等、連絡帳を使って家族に報告をすると共に、送迎時には自宅での様子を確認しご家族の思いも聞き取るように努め、家族のレスパイト(身体的、精神的負担の軽減)に努める。

③毎月、筋力や体力の評価(モニタリング)を行い、介護支援専門員と連携を図り、生活機能維持に努める。

(6)職員の資質向上に努める。

①積極的に施設内外問わず、研修に参加する。

②職員のコミュニケーション力を向上させ、利用者のこれまでの人生年表と社会の動向から利用者の歴史に触れ、新しい希望を見つけ実現しようとするパワーが持てるよう支援する。

③職員の資格取得や、福祉に関する分野以外にも様々な興味を持ち自己研鑽に努める。

実施ボランティア

ボランティア名	団体名	開催数
大正琴コンサート	アンサンブル向日葵	年1回
クリスマスコンサート	善通寺看護学校ボランティア	年1回
健康教室	ヤクルト	年1回～2回
紙芝居	安藤様	月1回
お茶会	尽誠学園ボランティア	年1回
オカリナコンサート	ウィズユー	年1回
民謡コンサート	桑山会	年1回
小学生・園児訪問	吉原小学校1年生・善通寺保育所	年1回
DAMレク	三木様	月1回
マジックショー	観音寺マジッククラブ	年1回
元気はつらつ教室	体操	月1回
音楽レク	歌 楽器演奏	月2回
笑いヨガ		月1回
高校生ボランティア	善通寺第一高等学校	

※上記団体によるレクリエーションを可能な限り実施する。

※『季節湯』については、以下のお湯以外にも、季節の食材や植物を楽しむ。

	季節湯	歳時記
1月	松湯	正月・初詣・七草がゆ・鏡開き・小正月
2月	大根湯	節分・初午・バレンタインデー
3月	ヨモギ湯	ひな祭り・お花見・ホワイトデー
4月	桜湯	野遊び
5月	菖蒲湯	八十八夜・端午の節句
6月	ドクダミ湯	夏越しの払い
7月	桃湯	七夕の節句・ほおずき市・土用の丑
8月	ハッカ湯	盆供養・夏祭り
9月	菊湯	月見・重陽の節句・お彼岸会
10月	生姜湯	秋祭り・紅葉狩り
11月	ミカン湯	お酉さま・七五三
12月	ゆず湯	冬至・すすはらい・つごもり

VI 『グループホーム仙遊荘』 事業計画

1 事業の概要

グループホームは、入居者に対し、可能な限り共同生活住居において、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、入浴・排泄・食事等の介護、その他の日常生活上の支援および機能訓練を行うことにより、入居者が有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目指すものである。

利用定員9名。

2 運営方針

入居者一人ひとりの意思と人格を尊重し、個別ケアの充実とその人らしさを考えた介護への取り組みを実施し、『つむぐ』の理念のもと、明るく家庭的な雰囲気の中で、今年度は『人生の最期までグループホームで生活が継続でき、家族や地域とのつながりを大切にする』をコンセプトに、関係が途切れることなく、やすらぎと生きがいを持ち、家族や地域とつながり続ける暮らしの実現を目指す。

職員は認知症の介護経験を有するとともに、定められた研修を受け、自らのサービス内容を評価し、常に介護サービスの質の向上に努める。

3 重点目標

(1)入居者9名との関係が途切れない暮らしの実現

(2)やすらぎを感じる、心地よい暮らしの実現

(3)やりがい、生きる喜びが持てる暮らしの実現

(4)家族や地域とつながり続ける暮らしの実現

上記4点の実現により、重度となってもグループホームで暮らし続けられること、入院・退居ゼロを目指す。

4 実施計画

(1)入居者9名との関係が途切れない暮らしの実現

- ①健康維持に努めるため、日々の健康管理を主治医や歯科医、歯科衛生士、特養看護師と連携を図り、健康管理（バイタル測定・服薬管理・口腔ケア）と異常の早期発見、早期対応に努める。
- ②感染対応については、四国こどもとおとなの医療センター感染症認定看護師とのつながりを継続し、感染症の情報を早くキャッチし、早期に対策を行う。
- ③旬の野菜を取り入れ、身体によい食事を提供する。
- ④体力の維持向上を図るため、毎朝のラジオ体操に自転車こぎや散歩等、プラスワンの運動を取り入れる。
- ⑤脳トレや季節の行事、回想法に昭和や平成の映画鑑賞を取り入れ、認知症状態悪化防止に努める。
- ⑥職員自身も心身共に健康に努め、ノーリフティングケアを取り入れて職員入居者の双方にとって負担の少ない介護を目指す。

(2)やすらぎを感じる、心地よい暮らしの実現

- ①浴室改造工事に伴い、機械浴の導入により寝たきりとなっても清潔保持に努め、ゆったりと入浴を楽しんでもらえるよう心掛ける。
- ②リラクゼーションの取り組みとして、一人一人に応じた入浴時間と入浴方法を実施し、安らぐ香り(アロマ)を取り入れ、ハンドマッサージやフットマッサージを行う。
- ③職員だけでなく、入居者同士の語らいの時間を大切にしたり関わりを行う。
- ④入居者一人ひとりの体調に合わせて、リビングで過ごす時間もリラックスできるようにソファやリクライニングのできる椅子などを準備し、より自宅に近い環境作りに努める。
- ⑤大切な家族とのつながりの支援として、日常の様子を写真やLINEで毎月伝え、遠方に居る家族も、身近に感じながら暮らせる支援を行う。

(3)やりがい、生きる喜びが持てる暮らしの実現

- ①入居者一人ひとりの興味のあること、趣味に関わることに寄り添い職員も一緒に楽しむ。

- ②職員の提案する物作りから、新たな楽しみにつながるよう、趣味が増える支援する。
- ③入居者一人ひとりの役割(日常生活の中で洗濯に関わること、食事に関わること、掃除に関わること、環境整備に関わること)と一緒に言いながら、一人ひとりの大切にしてきたことや、こだわりを知り、職員も大切にしてきたことを共感して共に生活する。

(4) 家族や地域とつながり続ける暮らしの実現

- ①コロナ禍で、3年間近く面会の制限を行ってきたが、感染対策を十分に図り、ウイルスの特徴を知り、安全な環境を整備した上で、対面面会の再開、家族招待での誕生日会の開催を再開する。
- ②運営推進会議を通じて、グループホーム運営の報告や地域の課題を知る機会に努める。
- ③行きつけのお店への買い物や、近所の理髪店、行きつけの美容院への外出支援を行い、馴染みの関係の継続に努める。
- ④アニマルセラピーを再開し、小動物をいたわり命の大切さに触れながら、癒しの時間に努める。
- ⑤お地蔵様の前掛け奉納や、中央公民館まつりの作品展示に参加する。地域に出かけることを通じて、グループホームでの暮らしを紹介する。公民館まつり参加を通じて、地域住民との関わりを持ち地域参加の意欲を高める。
- ⑥介護看護現場実習を受け入れ、世代を超えたつながりから、自身の人生観を語る時間を持つことで、脳の活性を図るだけでなく、次世代へ地域ごとや暦、戦争天災について語り継ぐ役割を担えるように支援に努める。

<年間行事計画>

	定例行事・活動	フロアー行事	行事食
内 容	<< 随時 >> お誕生日会 映画鑑賞 ドライブ・散歩 ショッピング << 年6回 >> 運営推進会議	4月 お花見 5月 家族交流会 6月 菖蒲湯 7月 七夕 8月 夏祭り 盆供養 9月 敬老会 12月 クリスマス会	4月 花見 5月 家族会 五月の節句 7月 丑の日 8月 八朔馬 お彼岸 9月 敬老の日 10月 お月見 12月 忘年会
	地域交流	1月 新年会 2月 節分 3月 雛祭り 彼岸供養	クリスマス会 年越しそば
	<< 年1回 >> 御地蔵様の前掛け奉納 公民館祭り作品展示 菊花展観覧 << 随時 >> アニマルセラピー 介護看護実習受け入れ	※その他、季節行事を随時実施	1月 お節料理 七草粥 2月 節分 3月 桃の節句

Ⅶ 『老人介護支援センター仙遊荘』 事業計画

1 事業の概要

居宅介護支援事業は、ケアマネージャーが要介護認定者に適正な居宅サービス計画(ケアプラン)を作成することを通して、介護を必要とする高齢者が心身の能力を最大限生かし、可能な限り自立し、その人らしく生活できるよう支援する事業である。

2 運営方針

社会福祉サービスの諸制度や援助の在り方について、今後の動向をしっかりと見極めて支援を行うとともに、利用者の生活課題の多様化、複雑化に伴い、支援においては他職種連携やネットワークの重要性を再認識し、福祉にかかわる専門職として果たすべき役割を模索し、利用者の望む暮らしを実現するためのソーシャルワークの実践を目指す。

介護保険の基本理念である『高齢者の自己決定権の尊厳』『自分らしい生活の維持』及び『自立支援』の基本に立ち返り、常に利用者の意向を踏まえ、自立支援に向けた居宅サービス計画を作成し、そのプランに沿ってサービスが提供されるよう関係事業者と調整しながら在宅生活が継続できるように支援を行う。

3 重点目標

- (1)介護支援専門員として専門的なアセスメントに基づいて利用者のニーズに対応する。
- (2)職員及び事業所の質の向上を目指す。

4 実施計画

- (1)介護支援専門員として専門的なアセスメントに基づいて利用者のニーズに対応する。

- ①利用者の暮らしを理解し、その人らしい自立した生活ができるよう利用者の『強み』を引き出すアセスメントを行う。
- ②『社会資源』を適切に結びつけ、利用者がその人らしく、適切な状態で暮らせるように支援を行う。
- ③利用者の権利を擁護しながら、個々に自立した暮らしができるように適切かつ、効果的に保険・医療・福祉サービスを利用できるように支援する。
- ④介護者のストレスの質や量を把握し、ストレスを緩和するような支援を行う。
- ⑤介護者のコミュニケーション能力を高められるように支援する。
- ⑥利用者の『尊厳ある生活』ができる限り住み慣れた地域で継続できるように支援する。
- ⑦入退院時には病院等との連携を図り、在宅復帰に向けた支援を行う。

- (2)職員及び事業所の質の向上を目指す。

- ①常に連絡・相談を受け入れる体制や心構えを持つ。
- ②介護者個々の事情や家庭を配慮したマネジメントを行うためのモニタリング力を高める。
- ③地域の社会資源を活用したマネジメントができるように、ネットワーク作りに取り組み、ケアマネ仲間を増やし情報量を増やせるよう努める。
- ④『いかに高齢者の自立を守り、尊重するか』の視点を持ち続ける。
- ⑤看護学校や病院関係者研修の受け入れを積極的に行い、介護保険制度やケアマネジメントプロセスについて伝える機会を持ち、自身のマネジメント力を振り返る機会にする。
- ⑥各種研修会への参加により、より専門的な知識と技術を習得する。特に医療知識の向上に努める。
- ⑦自己評価を利用者の更新時に行い、マネジメント業務の見直しを行う。
- ⑧介護サービス情報の公表を年1回実施することでサービスの見直しを行うと共に、ホームページにて公表していく。

5 居宅サービス計画作成目標数

<月平均居宅サービス計画作成見込件数>

	令和5年度
老人介護支援センター仙遊荘	40件

VIII 生計困難者に対する相談支援事業

1 事業の概要

本事業は社会福祉法人として目に見える形で公益活動を実践するために、地域の支援を必要とする人に対する相談活動を活発化し、関係機関との連携を十分に行い、相談活動を行う中で、支援を必要とする人の心理的不安の軽減を図り、また必要な制度、サービスにつなぐこととする。

2 運営方針

香川県内の主要福祉団体によって設置された、香川おもいやりネットワーク事業に参加し、他の社会福祉施設や社会福祉協議会と連携し、地域のニーズに対応しながら社会福祉法人の責務としての「地域における公益的な取組」をめざす。

3 重点目標

- (1)総合相談・支援事業
- (2)地域のネットワーク体制づくり。
- (3)相談・支援担当者等の研修参加

4 実施計画

(1)総合相談・支援事業

- ①「生活のしづらさ」を抱え支援が必要な者への相談受付
- ②社会福祉施設の機能や強み等、社会資源を活かした支援の実施
- ③必要に応じて緊急的な支援である現物支給の実施

(2)地域のネットワーク体制づくり。

コロナ禍の収束を見計らいながら、地域で開催される会議等への参加し情報を共有すると共に、互いの顔の見える関係を構築する。

(3)相談・支援担当者等の研修参加

- ①相談・支援担当者の養成研修や、Web上でのスキルアップ研修への参加促進
- ②社会福祉施設が持つ知識や専門技術を積極的に地域へ伝え、福祉教育を推進する

IX 『養護老人ホーム五岳荘』事業計画

1 事業の概要

養護老人ホーム五岳荘は、環境上の理由及び経済的理由により、在宅において日常生活を営むのが困難な65歳以上の方を養護するとともに、入所者がその有する能力に応じて自立した生活ができることを目指す。自立支援を目指す生活の場として地域支援のネットワークに加わり、その機能の維持向上に努める。

2 重点目標

- (1) 措置入所、契約入所の運営安定に向けた取り組み
- (2) 理念の浸透と理念に沿ったケアの実践
- (3) 職員間、多職種との連携に努める
- (4) 感染症に対応できる施設環境と業務体制を整える
- (5) 地域、家族との関わりを持ち、情報の発信を行う

3 実施計画

(1) 措置入所、契約入所、運営安定に向けた取り組み

- ① 市町の地域包括支援センターや病院の地域連携室等に出向き、福祉ニーズの発掘に努める。
特に、市町の担当職員への施設案内を積極的に展開し措置制度の理解を求める。
- ② 困難事案に対応できるよう、施設の環境整備を図る。
- ③ 職員研修、リモート研修に積極的参加し、職員の質の向上に努める

(2) 理念の浸透と理念に沿ったケアの実践

- ① 何気ない会話の時間をもつことで、その人の生活歴を知り、個別ケアに努める。
- ② その人らしい日常生活が営めるよう、入所者目線の支援に努める。
- ③ 理念に沿ったケアであるか現在のケアの見直し。
- ④ 感染症状況(コロナ等)に応じて、近隣の散歩や買い物等に同伴し、気分転換を図る。
- ⑤ 入所者の意見、入所者の嗜好の把握に努め献立作成や行事食に生かす。

(3) 職員間、多職種との連携に努める

- ① 定期カンファレンス及び臨時会等を積極的に開催し、統一したサービス提供、早期対応を行う。
- ② 事故報告、ヒヤリハットの検証を行い事故防止・予防の意識を高め、入居者が安心して暮らせる生活環境の提供を行う。
- ③ 主治医との連絡を密にし、看護職員、支援員全員が服薬管理、バイタル測定を行うことにより入所者の健康管理に努める。

(4) 感染症に対応できる設備環境と業務体制を整える

- ① 職員自身が普段より日常生活に注意を払い、コロナ等の感染予防に努める。
- ② トイレ、廊下、共用部の消毒を徹底し、予防に努める。
- ③ 「ちょっと違う」を見逃さないよう、日常の様子観察に努める。
- ④ 旧ふれあいサロンを感染対応フロアとして積極的に活用する。

(5) 地域、家族との関わりを持ち、情報の発信を行う

- ① サービス提供や体調面など家族と連絡を取りながら、家族の意見等も反映した支援を行う。
- ② 地域の拠点として開かれた施設づくりに繋げる。
- ③ 入所者が自主的に参加できる環境づくり、ICTを積極的に取り入れレクリエーションの機会を増やす。
- ④ タブレット、LINEを活用し普段の様子の写真や日常の出来事等、家族に細目に報告を行う。
- ⑤ ボランティアの方々に施設のイメージや様子等のアンケートを頂き、ご意見、感想を参考として入所者へのサービスの向上に繋げる。

X 『特別養護老人ホームまほろば』 事業計画

1 事業の概要

特別養護老人ホームまほろばは、居室やリビングなどの住環境と、利用者中心の暮らしを育むケア、そしてチームケアを推進する勤務体制この3つの要素を実践するために少人数ケア体制を構築し、利用者一人ひとりの個性や生活のリズムに沿ったケアを行い、入居前の居宅における生活と入居後の生活が継続したものとなるように支援すると共に自立的な日常生活を営むことを目的とする。

3ユニット 入居定員30名

2 運営方針

介護が必要となっても、自宅に住み、地域のなかで家族や親しい人たちと共に、不安のない生活を送りたいという希望を実現するために「家庭生活の延長線上にある暮らし」を理念とし、入居後なるべく自宅に近い環境で生活する事の出来る施設であり、最後までその人らしい人生を送ることが出来るように支援をします。

3 重点目標

- (1)「家庭生活の延長線上にある暮らし」の理念を理解する。
- (2)一人ひとりの状態に合わせた介護ケアを行う。
- (3)なじみの関係を作る為のコミュニケーション作り。
- (4)24時間シートを活用したケアプランの実践
- (5)季節感が楽しめる食事の提供
- (6)スムーズな入退居の支援

4 実施計画

- (1)「家庭生活の延長線上にある暮らし」の理念を理解する。
 - ①職員研修やリモート研修などに参加し、職員の質の向上に常に努める。
 - ②利用者様とのかかわりの中でマンネリ化を防ぎ、運営当時の気持ちで初心を忘れずにケアを再確認する。
 - ③利用者様の状態など理解した上でその人に合った「家庭生活の延長線上にある暮らし」の理念を入れたプランを考える。
- (2)一人ひとりの状態に合わせた介護ケアを行う。
 - ①事故報告書やヒヤリハットを検証し、重大な事故及び類似事故の未然防止に努める。
 - ②利用者様のちょっとした変化にも築けるように介護、看護の連携を密にする。
 - ③職員がしっかりとした感染対策を行うことで、施設内での持ち込みを未然に防ぐ。
 - ④職員の腰痛予防対策(ノーリフトケア)を取り入れることで、自分の身を守り入居者様に対しても安心安全に介助を行う。
 - ⑤ユニットミーティングやリーダー会議に加え、問題や課題があればその都度ミニカンファレンスなど開き、意見交換の場を設け解決策を見つける。
- (3)なじみの関係を作る為のコミュニケーション作り。
 - ①職員は同じユニットの専任の為、顔なじみになる事で安心感が生まれる。
 - ②感染症対策として、ICTを活用しリモート面会やガラス越し面会を行い家族様と利用者様が安心して会話出来る場を提供する。
- (4)24時間シートを活用したケアプランの実践
 - ①入居者が施設に入居しても「暮らしの継続」ができる様に生活のリズムを24時間シートで把握する。
 - ②24時間シートを活用し、安全で健康的な生活を24時間体制にて支援して行き記録との連動により、ケアの統一化と質の向上を目指す。
 - ③家庭生活の延長線上にある暮らしをして頂くために、入居者の過ごしてきた時間を知りケアプランに繁栄する。

(5) 季節感が楽しめる食事

- ①行事ごとには献立に旬な果物や野菜を取り入れ提供し、季節感を楽しむ。
- ②ご飯を炊き、盛り付けをし、みんなで食べ、洗い物をする。これまでの生活と同じ食事風景を展開し、五感を刺激させる。
- ③おやつ、飲み物などその人に合ったものを提供する。
- ④入居者に嗜好調査を実施し、献立作成に繋ぎ合わせる。

(6) スムーズな入退居の支援

- ①法人全体で入居希望者の情報を共有し、次の希望者がスムーズに入居できるようリードタイムを減少させる。
- ②退居後は、徹底した居室清掃を行い、次の入居者及びその家族に満足感を提供できるよう努める。

X I 仙遊荘拠点区分 資金収支予算書
(自)令和 5 年 4 月 1 日 (至)令和 6 年 3 月 31 日

(単位:円)

勘定科目	予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	備考	
事業活動による収支	介護保険事業収入	391,280,000	384,850,000	6,430,000	
	施設介護料収入	168,600,000	166,100,000	2,500,000	
	介護報酬収入	151,000,000	148,700,000	2,300,000	
	利用者負担金収入(公費)	600,000	600,000	0	
	利用者負担金収入(一般)	17,000,000	16,800,000	200,000	
	居宅介護料収入	93,550,000	89,270,000	4,280,000	
	(介護報酬収入)	83,800,000	80,000,000	3,800,000	
	介護報酬収入	83,500,000	79,700,000	3,800,000	
	介護予防報酬収入	300,000	300,000	0	
	(利用者負担金収入)	9,750,000	9,270,000	480,000	
	介護負担金収入(公費)	80,000	60,000	20,000	
	介護負担金収入(一般)	9,600,000	9,140,000	460,000	
	介護予防負担金収入(公費)	10,000	10,000	0	
	介護予防負担金収入(一般)	60,000	60,000	0	
	地域密着型介護料収入	34,030,000	33,030,000	1,000,000	
	(介護報酬収入)	30,250,000	29,550,000	700,000	
	介護報酬収入	30,000,000	29,500,000	500,000	
	介護予防報酬収入	250,000	50,000	200,000	
	(利用者負担金収入)	3,780,000	3,480,000	300,000	
	介護負担金収入(一般)	3,600,000	3,450,000	150,000	
	介護予防負担金収入(一般)	180,000	30,000	150,000	
	居宅介護支援介護料収入	5,000,000	4,800,000	200,000	
	居宅介護支援介護料収入	5,000,000	4,800,000	200,000	
	介護予防・日常生活支援総合事業収入	2,790,000	2,690,000	100,000	
	事業費収入	2,500,000	2,400,000	100,000	
	事業負担金収入(公費)	20,000	20,000	0	
	事業負担金収入(一般)	270,000	270,000	0	
	利用者等利用料収入	85,950,000	83,650,000	2,300,000	
	施設サービス利用料収入	7,300,000	7,150,000	150,000	
	居宅介護サービス利用料収入	2,000,000	1,950,000	50,000	
	地域密着型介護サービス利用料収入	2,900,000	2,900,000	0	
	食費収入(公費)	240,000	190,000	50,000	
	食費収入(一般)	33,350,000	32,650,000	700,000	
	食費収入(特定)	8,200,000	8,200,000	0	
	居住費収入(一般)	22,500,000	21,300,000	1,200,000	
	居住費収入(特定)	7,160,000	7,160,000	0	
	その他の利用料収入	2,300,000	2,150,000	150,000	
	その他の事業収入	1,360,000	5,310,000	△ 3,950,000	
	補助金事業収入(公費)	1,350,000	5,300,000	△ 3,950,000	
	受託事業収入(公費)	10,000	10,000	0	
香川おもいやりネットワーク事業収入	200,000	200,000	0		
事業収入	200,000	200,000	0		
経常経費寄附金収入	300,000	300,000	0		
受取利息配当金収入	10,000	10,000	0		
その他の収入	2,320,000	7,020,000	△ 4,700,000		
受入研修費収入	220,000	220,000	0		
雑収入	2,100,000	6,800,000	△ 4,700,000		
事業活動収入計(1)	394,110,000	392,380,000	1,730,000		

(単位:円)

勘定科目		予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	備考
事業活動による収支	人件費支出	239,410,000	231,290,000	8,120,000	
	役員報酬支出	200,000	200,000	0	
	職員給料支出	145,500,000	141,830,000	3,670,000	
	職員賞与支出	31,750,000	30,980,000	770,000	
	非常勤職員給与支出	14,200,000	13,500,000	700,000	
	派遣職員費支出	13,280,000	12,610,000	670,000	
	退職給付支出	3,790,000	3,580,000	210,000	
	法定福利費支出	30,690,000	28,590,000	2,100,000	
	事業費支出	77,388,600	73,240,000	4,148,600	
	給食費支出	22,780,000	22,420,000	360,000	
	介護用品費支出	3,410,000	3,110,000	300,000	
	医薬品費支出	625,000	615,000	10,000	
	保健衛生費支出	430,000	430,000	0	
	教養娯楽費支出	1,020,000	1,000,000	20,000	
	水道光熱費支出	29,800,000	26,570,000	3,230,000	
	燃料費支出	800,000	480,000	320,000	
	消耗器具備品費支出	9,320,000	9,320,000	0	
	保険料支出	2,450,000	2,420,000	30,000	
	賃借料支出	4,890,000	4,830,000	60,000	
	車輛費支出	1,295,000	1,145,000	150,000	
	雑支出	568,600	900,000	△ 331,400	
	事務費支出	41,460,000	41,515,000	△ 55,000	
	福利厚生費支出	4,530,000	4,500,000	30,000	
	職員被服費支出	250,000	360,000	△ 110,000	
	旅費交通費支出	20,000	20,000	0	
	研修研究費支出	515,000	435,000	80,000	
	事務消耗品費支出	210,000	130,000	80,000	
	修繕費支出	5,700,000	6,040,000	△ 340,000	
	通信運搬費支出	1,030,000	1,030,000	0	
	会議費支出	20,000	20,000	0	
	広報費支出	100,000	100,000	0	
	業務委託費支出	26,410,000	26,290,000	120,000	
	手数料支出	95,000	90,000	5,000	
租税公課支出	180,000	160,000	20,000		
保守料支出	1,160,000	1,160,000	0		
渉外費支出	180,000	270,000	△ 90,000		
諸会費支出	550,000	550,000	0		
雑支出	510,000	360,000	150,000		
支払利息支出	161,400	345,000	△ 183,600		
事業活動支出計(2)	358,420,000	346,390,000	12,030,000		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	35,690,000	45,990,000	△ 10,300,000		
施設整備等による収支	施設整備等補助金収入		5,500,000	△ 5,500,000	
	施設整備等補助金収入		5,500,000	△ 5,500,000	
	施設整備等収入計(4)		5,500,000	△ 5,500,000	
	設備資金借入金元金償還支出	20,580,000	20,580,000	0	
	固定資産取得支出	10,100,000	11,060,000	△ 960,000	
	建物取得支出(基本財産)	7,000,000	6,560,000	440,000	
	器具及び備品取得支出	3,100,000	4,500,000	△ 1,400,000	
	固定資産除却・廃棄支出	340,000	370,000	△ 30,000	
	建物除却・廃棄支出(基本財産)	110,000	330,000	△ 220,000	
	器具及び備品除却・廃棄支出	230,000	40,000	190,000	
施設整備等支出計(5)	31,020,000	32,010,000	△ 990,000		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 31,020,000	△ 26,510,000	△ 4,510,000		
その他の活動による収支	その他の活動による収入	1,360,000	1,360,000	0	
	長期前払費用消去収入	1,360,000	1,360,000	0	
	その他の活動収入計(7)	1,360,000	1,360,000	0	
	長期運営資金借入金元金償還支出	1,000,000	1,000,000	0	
	積立資産支出	430,000	8,380,000	△ 7,950,000	
	退職給付引当資産支出	430,000	380,000	50,000	
	修繕積立資産支出		8,000,000	△ 8,000,000	
	その他の活動による支出	1,000,000	6,000,000	△ 5,000,000	
	長期前払費用支出	1,000,000	6,000,000	△ 5,000,000	
	その他の活動支出計(8)	2,430,000	15,380,000	△ 12,950,000	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 1,070,000	△ 14,020,000	12,950,000		
予備費支出(10)	3,600,000	3,145,000	455,000		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	0	2,315,000	△ 2,315,000		
前期末支払資金残高(12)	252,303,010	252,303,010	0		
当期末支払資金残高(11)+(12)	252,303,010	254,618,010	△ 2,315,000		

X II 五岳荘拠点区分 資金収支予算書
(自)令和 5 年 4 月 1 日 (至)令和 6 年 3 月 31 日

(単位:円)

勘定科目		予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	備考		
収入	老人福祉事業収入	87,560,000	78,500,000	9,060,000			
	措置事業収入	75,560,000	69,700,000	5,860,000			
	事務費収入	58,000,000	53,000,000	5,000,000			
	事業費収入	17,360,000	16,500,000	860,000			
	その他の事業収入	200,000	200,000	0			
	運営事業収入		2,000,000	△ 2,000,000			
	補助金事業収入		2,000,000	△ 2,000,000			
	その他の事業収入	12,000,000	6,800,000	5,200,000			
	管理費収入	9,000,000	4,000,000	5,000,000			
	その他の利用料収入	3,000,000	2,800,000	200,000			
	経常経費寄附金収入	50,000	50,000	0			
	受取利息配当金収入	10,000	10,000	0			
	その他の収入	100,000	1,050,000	△ 950,000			
	雑収入	100,000	1,050,000	△ 950,000			
	事業活動収入計(1)	87,720,000	79,610,000	8,110,000			
	事業活動による収支	支出	人件費支出	47,660,000	47,660,000	0	
			職員給料支出	28,600,000	28,600,000	0	
職員賞与支出			6,300,000	6,300,000	0		
非常勤職員給与支出			3,900,000	3,900,000	0		
派遣職員費支出			2,500,000	2,500,000	0		
退職給付支出			360,000	360,000	0		
法定福利費支出			6,000,000	6,000,000	0		
事業費支出			23,870,000	23,880,000	△ 10,000		
給食費支出			8,500,000	8,500,000	0		
介護用品費支出			70,000	38,600	31,400		
医薬品費支出			70,000	70,000	0		
保健衛生費支出			300,000	300,000	0		
教養娯楽費支出			360,000	360,000	0		
本人支給金支出			2,380,000	2,380,000	0		
水道光熱費支出			8,700,000	8,400,000	300,000		
燃料費支出			20,000	20,000	0		
消耗器具備品費支出			1,380,000	1,380,000	0		
保険料支出			840,000	840,000	0		
賃借料支出			700,000	700,000	0		
車輛費支出			450,000	450,000	0		
雑支出		100,000	441,400	△ 341,400			
事務費支出		14,350,000	14,290,000	60,000			
福利厚生費支出		1,000,000	950,000	50,000			
職員被服費支出		50,000	40,000	10,000			
旅費交通費支出		10,000	10,000	0			
研修研究費支出		200,000	200,000	0			
事務消耗品費支出		130,000	130,000	0			
修繕費支出		820,000	820,000	0			
通信運搬費支出		350,000	350,000	0			
広報費支出		50,000	50,000	0			
業務委託費支出		11,120,000	11,120,000	0			
手数料支出		30,000	30,000	0			
租税公課支出		150,000	150,000	0			
保守料支出		170,000	170,000	0			
渉外費支出		50,000	50,000	0			
諸会費支出		130,000	130,000	0			
雑支出		90,000	90,000	0			
事業活動支出計(2)		85,880,000	85,830,000	50,000			
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		1,840,000	△ 6,220,000	8,060,000			
施設整備等による収支		収入	施設整備等補助金収入		2,200,000	△ 2,200,000	
			施設整備等補助金収入		2,200,000	△ 2,200,000	
	施設整備等収入計(4)			2,200,000	△ 2,200,000		
	支出	固定資産取得支出	1,000,000	3,500,000	△ 2,500,000		
		建物取得支出(基本財産) 器具及び備品取得支出	1,000,000	390,000	△ 390,000		
施設整備等支出計(5)	1,000,000	3,500,000	△ 2,500,000				
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 1,000,000	△ 1,300,000	300,000				
その他の活動による収支	収入	その他の活動による収入	500,000	500,000	0		
		長期前払費用消去収入	500,000	500,000	0		
		その他の活動収入計(7)	500,000	500,000	0		
	支出	積立資産支出	340,000	310,000	30,000		
		退職給付引当資産支出	340,000	310,000	30,000		
その他の活動による支出	400,000	1,800,000	△ 1,400,000				
長期前払費用支出	400,000	1,800,000	△ 1,400,000				
その他の活動支出計(8)	740,000	2,110,000	△ 1,370,000				
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 240,000	△ 1,610,000	1,370,000				
予備費支出(10)	600,000	370,000	230,000				
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	0	△ 9,500,000	9,500,000				
前期末支払資金残高(12)	12,065,665	21,925,665	△ 9,860,000				
当期末支払資金残高(11)+(12)	12,065,665	12,425,665	△ 360,000				

XIII まほろば拠点区分 資金収支予算書
(自)令和5年4月1日 (至)令和6年3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	備考		
収入	介護保険事業収入	167,430,000	169,250,000	△ 1,820,000			
	施設介護料収入	122,500,000	121,300,000	1,200,000			
	介護報酬収入	110,000,000	109,000,000	1,000,000			
	利用者負担金収入(一般)	12,500,000	12,300,000	200,000			
	利用者等利用料収入	44,900,000	44,900,000	0			
	施設サービス利用料収入	4,400,000	4,400,000	0			
	食費収入(一般)	12,400,000	12,400,000	0			
	食費収入(特定)	3,100,000	3,100,000	0			
	居住費収入(一般)	20,650,000	20,600,000	50,000			
	居住費収入(特定)	4,350,000	4,400,000	△ 50,000			
	その他の事業収入	30,000	3,050,000	△ 3,020,000			
	補助金事業収入(公費)	30,000	3,050,000	△ 3,020,000			
	経常経費寄附金収入	100,000	100,000	0			
	受取利息配当金収入	10,000	10,000	0			
	その他の収入	500,000	1,000,000	△ 500,000			
	雑収入	500,000	1,000,000	△ 500,000			
	事業活動収入計(1)	168,040,000	170,360,000	△ 2,320,000			
	事業活動による収支	支出	人件費支出	107,180,000	104,380,000	2,800,000	
			職員給料支出	62,000,000	60,000,000	2,000,000	
職員賞与支出			12,830,000	12,630,000	200,000		
非常勤職員給与支出			6,970,000	6,870,000	100,000		
派遣職員費支出			11,500,000	11,500,000	0		
退職給付支出			1,380,000	1,380,000	0		
法定福利費支出			12,500,000	12,000,000	500,000		
事業費支出			33,967,300	30,090,000	3,877,300		
給食費支出			10,600,000	10,600,000	0		
介護用品費支出			2,800,000	2,400,000	400,000		
医薬品費支出			157,300	137,300	20,000		
保健衛生費支出			300,000	278,000	22,000		
教養娯楽費支出			190,000	190,000	0		
水道光熱費支出			12,000,000	9,000,000	3,000,000		
消耗器具備品費支出			5,000,000	4,704,700	295,300		
保険料支出			1,100,000	1,070,000	30,000		
賃借料支出			1,620,000	1,620,000	0		
車両費支出			100,000	30,000	70,000		
雑支出		100,000	60,000	40,000			
事務費支出		5,751,900	5,260,000	491,900			
福利厚生費支出		2,000,000	2,000,000	0			
職員被服費支出		38,300	38,300	0			
旅費交通費支出		2,000	1,700	300			
研修研究費支出		100,000	16,400	83,600			
事務消耗品費支出		60,000	60,000	0			
修繕費支出		500,000	440,000	60,000			
通信運搬費支出		200,000	200,000	0			
広報費支出		100,000	50,000	50,000			
業務委託費支出		2,050,000	1,902,000	148,000			
租税公課支出		60,000	10,000	50,000			
保守料支出		300,000	240,000	60,000			
渉外費支出		130,000	130,000	0			
諸会費支出		111,600	111,600	0			
雑支出	100,000	60,000	40,000				
支払利息支出	5,700,000	5,900,000	△ 200,000				
事業活動支出計(2)	152,599,200	145,630,000	6,969,200				
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	15,440,800	24,730,000	△ 9,289,200				
施設整備等による収支	収入	施設整備等収入計(4)					
		設備資金借入金元金償還支出	17,760,000	17,760,000	0		
		固定資産取得支出	500,000	500,000	0		
	支出	器具及び備品取得支出	500,000	500,000	0		
		固定資産除却・廃棄支出	10,000	10,000	0		
		器具及び備品除却・廃棄支出	10,000	10,000	0		
施設整備等支出計(5)	18,270,000	18,270,000	0				
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 18,270,000	△ 18,270,000	0				
その他の活動による収支	収入	その他の活動による収入	600,000	600,000	0		
		長期前払費用消去収入	600,000	600,000	0		
	その他の活動収入計(7)	600,000	600,000	0			
	支出	その他の活動による支出		1,800,000	△ 1,800,000		
		長期前払費用支出		1,800,000	△ 1,800,000		
その他の活動支出計(8)		1,800,000	△ 1,800,000				
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	600,000	△ 1,200,000	1,800,000				
予備費支出(10)	1,032,400	2,000,000	△ 967,600				
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△ 3,261,600	3,260,000	△ 6,521,600				
前期末支払資金残高(12)	102,865,548	99,205,548	3,660,000				
当期末支払資金残高(11)+(12)	99,603,948	102,465,548	△ 2,861,600				